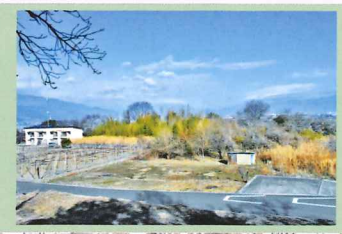
2 天正壬午の乱と中世城館

中央市　市川三郷町

武田家を滅ぼした織田信長が、甲州征伐から3か月ほど後の天正10年(1582)6月に本能寺の変により倒された結果、甲斐、信濃、上野の支配をめぐり徳川氏、北条氏、上杉氏が起こした争乱を天正壬午の乱という。市川三郷町と中央市豊富地区は南に御坂山系が連なり、北は笛吹川、釜無川に芦川が合流する位置にあるが、古くから幾筋もの道が交差する交通の要衝の地であった。このような立地のため敵の侵攻に備えた砦や烽火台が南の山中に築かれた。

御屋敷遺跡がある平塩の岡は甲斐源氏の祖、源義清が甲斐国に最初に足を踏み入れた地と伝わる。義清が晩年を過ごした現昭和町にも館の伝承地等が残る。



1 義清館跡(御屋敷遺跡)

甲斐源氏の祖、源義清居館伝承地。発掘調査が行われたが館に関するものは発見されなかった。

6 古城山城跡

東西約20m、南北約28mの主郭を中心に土塁、竪堀、横堀などの遺構が残る。

7 古城山烽火台跡

古城山山城の南約600mにあり、比高差約450mである。現在公園として整備してある東側のピークが本来の烽火台跡である。山頂にテラスがあり4×6mほどの低い塚状の高まりがある。

※四尾連湖駐車場はすべて有料